

形があっても真の魂が宿らない

ある官庁の出先き機関が HP で「起業塾」の受講生を募集しておりました（9月初旬に募集開始、10月下旬から月2回、12月中旬に開催）。

カリキュラムを確認しましたが、大いなる疑問を感じましたので今月号の原稿に致します。それは当カリキュラムがこれから起業を考える初歩的な人達を対象とするには、主催サイドが手抜きをして、講師陣に丸なげした企画構成で、受講生の期待と学習意欲を裏切るものだと痛感したからです。そして思いますに、現在開催されている全国どこの「起業塾」や「創業セミナー」と云うものの実態は、同様なのであろうと数々の経験から実感しています。

これは指摘した今回の件に限らず、各団体や組織体が真に起業を志す方のために知識として大切なことを教え、数々の疑問に答えていくと云う、支援の姿勢が欠落しているカリキュラムだからです。即ち運営組織のスタッフの能力、意欲そして業務に対する責任と愛情のない企画構成に終始しているからだと思います。

参考までに一部省略して HP 転載してみますと

	テーマ	項目
第1回	総論	・起業の現状、起業の心構え
第2回	事業計画とは	・事業計画の重要性、書き方
第3,4回	マーケティングⅠ・Ⅱ	・マーケティングの基礎、ネット起業に役立つ知識他
第5,6,7回	財務Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・財務の基礎、損益計算表の読み方他
第8回	事業計画完成	・事業計画書を完成させるための知識と技術
第9回	事業計画発表	・事業計画発表・修了証授与（懇親会）

講師陣はほとんど中小企業診断士ですが、本当に受講生の人達にとって価値あるカリキュラムを練って絞りこんだとは思えません。

なぜなら 一つに、経営実務をしたことのない人が、学問としての起業を語っていること。
二つは、受講生が真に欲しい先輩諸氏の体験談などリアルティさが全くなく、事業計画、マーケティング、財務に傾注していること。
三つは、プログラムの作り方にダイナイズミが感じられず、単にセオリー通りに淡々と消化をすれば良いとの考えが底辺にあること 等です。

要はセミナーや塾に参加し学習意欲をもつ初歩的な人達が知りたいことは、学術的な知識だけではなく、総体的で現実的な話しや実体験の話しに接したいのです。

ですから内容は受講生がもつ起業に対する不安に対し「解」を与えられるカリキュラムでなければならないと思います。

また、これに何より欠けていることは、実際に自らが起業して、これから次を担う人に対しての体験談であり、それらを通して少しでも具体的な「事前の心がまえ」を学ぶことが最大のテーマだと思います。

私の友人で、「起業塾」や「創業セミナー」で体験談を積極的にお話しをしている方に感想を求めますと

「このカリキュラムでは、各中小企業診断士先生方の自己中心の一方的なカリキュラムで、単なる彼等の自己満足に過ぎないですね。受講生がこの起業塾を受けても、事業計画と財務管理だけではなんだか可哀想ですね。」とのことでした。